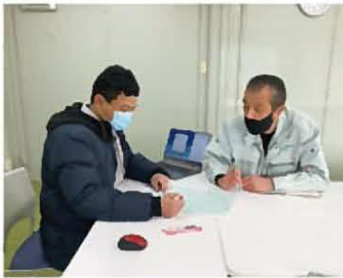


企業で取り組む環境経営
エコアクション
21 vol.22



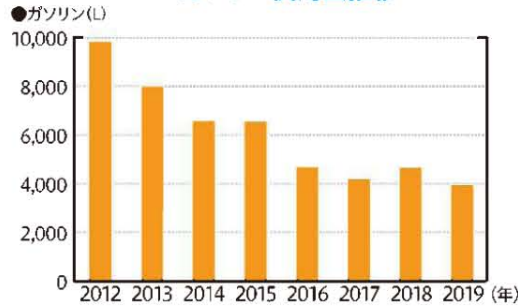
お話を聞きしたのは
タマタイ産業株式会社
代表取締役社長
おおつか まさし
大塚 雅司さん

営業スタイルの変革で
ガソリンを大幅削減！
事業拡大と環境対策を
両輪で進める未来へ



効率良く営業に回るため、事前ミーティングで得意先の訪問ルートを作成

▶ ガソリン使用量推移



「エコアクション21に取り組まれたきっかけは？」

産業廃棄物処理の事業規模が広がっていき、環境マネジメントシステムの必要性を感じるようになりました。エコアクション21(以下E A 21)は取り組みやすい点が魅力。産業廃棄物処分の許認可は通常5年更新なのですが、E A 21の認定を受けると7年更新になる点もメリットを感じました。

「E A 21の認証から社内に変化はありましたか？」

業務を拡大していくと、通常の業務では細かいところまで目が届きづらくなるものです。E A 21の認定から、不要な照明はオフにする、アイドリンググストップを心がけるなど、ポトムアップで取り組むようになりました。E A 21の要求事項のひとつである「緊急事態への対応」とリンクする防災や救護活動などの訓練も定着しました。

「ガソリン使用量が約10年で半減されています。対策について教えてください。」

ガソリンの使用は営業活動に関わる移動によるものです。エコカーへ転換し、さらに営業スタイルも工夫。効率良く回れるルートを作成し、一つの地域に向く場合は周辺の得意先をまとめて巡るようにしています。新規開拓に力を入れていた頃は、直接訪問で

はなくダイレクトメールを活用。現在も価格変更など案内が必要な際は郵送でお知らせしています。広域の営業は、兵庫県や広島県のグループ企業とも連携。向う回数減らすことで環境負荷とコストを減らし、利益にもつながっています。

「西日本豪雨の影響で一時的に処理量が増加したのですが、どのような省エネ活動をされましたか？」

これまで、廃棄物の木材を破砕し、トラックで別の場所にある2台目の機械へ運び、再度細かく破砕し、さらに保管場所まで運搬していました。この工程を効率化すれば、手間の削減と省エネの両立ができると考え、2019年に1台で処理が完結する機械を導入。また、破砕機の側に保管用のサイロを設置しました。やみくもに設備投資をするのではなく、工程のどこに手間や無駄があるかを見極め、適切な見直しをしていくことが今後大切だと考えています。

「社員一丸となって取り組むための基礎になる活動はありますか？」

2015年からグループの全従業員が参加する業務改善プロジェクトを実施しています。事務作業の電子化や不要な帳簿の見直しなど

を進め、効率アップによるエネルギー削減がE A 21の取組にもつながっています。2020年からはSDGsの理念も取り入れられました。

「今後の方針を教えてください。」

台風や豪雨などの発生率が高まる中で、災害廃棄物の増加が懸念されています。これは廃棄物処理業者が業界全体で対峙していかなければいけない大きな課題。社会での役割を模索しながら、同時に一企業としてBCP(事業継続計画)に注力し緊急時に備えていきたいです。今年度の方針は「災害トラブルに対する課題解決」。災害時を想定した備えをし、E A 21の取組にもBCPを組み込んでいく予定です。

タマタイ産業株式会社

所在地 〒700-0935 岡山県岡山市北区神田町2-1-25
従業員数 41名(全社) 認証・登録日 2012年4月
木屑・繊維屑・紙屑・廃プラスチックなどの廃棄物の処理、リサイクル製品の生産を行っています。

エコアクション21

環境省が策定したガイドラインに基づいて環境経営のためのしくみを構築・適用している事業者を認証し登録する制度です。



エコアクション21 地域事務局岡山県環境保全事業団

〒701-0212 岡山市南区内尾665-1 Tel 086-298-2122 Fax 086-298-2496
Mail ea21@kankyo.or.jp http://www.kankyo.or.jp
Facebook https://www.facebook.com/ecoaction21/